
I. 基盤科目

1. 共通科目

【科目番号：1000 番台】

1.	国際教養概論～グローバル市民を目指して～	[必修]	1001
2.	基礎演習（プレゼンテーション）	[必修]	1002
3.	基礎演習（ファシリテーション）	[必修]	1003
4.	文章表現法／論文・レポートの書き方	[必修]	1004
5.	スポーツ理論・実技Ⅰ		1005
6.	スポーツ理論・実技Ⅱ		1006
7.	野外スポーツ実習（スキー・カヤック）		1007

2020/08/05(水)11:48

授業科目名	国際教養概論～グローバル市民を目指して～	授業形態	講義
英語科目名	Global liberal arts	開講学期	前期
対象学年	1	単位数	2
科目責任者	湯浅 資之	ナンバリング	1001
科目担当者			
木南、加藤、鈴木、白山、田村、フランソワ、玉村、大槻、吉武、岡部、大野、齋藤、湯浅、高濱、佐々木			
授業の概要			
国際性と「仁」の精神を兼ね備えたグローバル市民となるために、「グローバル社会」「異文化コミュニケーション」「グローバルヘルスサービス」という異なる領域について、それぞれの教員の講義を受けることで、本学部で学ぶ分野の広がり、それがどのように国際的なリテラシーと関わるかを、教員と学生が共に語り合い考察します。			
授業の達成目標			
1. グローバル市民として活躍するために必要な知識や技能が何であるか説明することができる。 2. 国内外で生じている社会問題や容認し得ない格差・不公平のうち、自分が関心を持っているテーマについて説明することができる。 3. グローバルな視野に立った異文化理解とコミュニケーションの重要性を説明することができる。 4. 本学部で学びたい関心のある分野を選択することができる。 5. 卒業後の自分の人生設計について意見を述べるすることができる。			
成績評価方法			
授業参加度(60%)と授業で出されたリアクションペーパーの提出状況(40%)から総合評価します。			
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)			
一方向的な授業ではなく、講師と学生が双方向に意見を交えた授業を展開するので、学生の積極的な参加を期待します。			
<特別講義について>			
特別講義は、必修科目「国際教養概論」として実施しますので必ず出席してください。国際教養概論は前期科目ですが、最終的な評価は特別講義の出席状況・課題の提出状況を踏まえ、年度末に総合的に行いますので、前期の成績が修正される場合があります。講師は授業計画の通り予定していますが、先生以外にも特別講義が複数回予定されています。日程は決定次第、連絡します。また同一講師による複数回の講義もありますのでご承知おください。			
テキスト・参考書			
テキストは使わず、毎回のテーマに沿った講義資料や参考文献を提示します。			
オフィスアワー			
各教員のオフィスアワーを確認すること。			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法			
授業内やJuntendo Passportを使用して返却します。			

授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】			
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)
1	加藤 洋一	グローバルヘルスサービス(1);現代の国際社会に求められるヘルスリテラシー	[予習]アメリカの国民健康指針Healthy People 2010におけるヘルスリテラシーの定義を調べておくこと(90分) [復習]講義の内容の振り返りを行うこと(90分)
2	木南 英紀	国際教養専門科目のオリエンテーション-教養とは何か	[予習]「教養」とは何であるか。自分なりの定義を考え、まとめておくこと(90分) [復習]講義の内容の振り返りを行うこと(90分)
3	鈴木 美奈子	グローバルヘルスサービス(2);人々の健康観とヘルスプロモーション	[予習]自分自身の「健康とは何か」について考えをまとめておくこと。ヘルスプロモーションについて事前に調べておくこと(90分) [復習]講義の内容の振り返りを行うこと(90分)
4	白山 芳久	グローバルヘルスサービス(3);熱帯地域に暮らす人々の健康課題	[予習]開発途上国、特に熱帯地域で暮らす人々にはどのような健康課題が存在するか事前に調べてくること(90分) [復習]講義の内容の振り返りを行うこと(90分)
5	湯浅 資之	グローバルヘルスサービス(4);地球での生き方	[予習]WHOが提案するスピリチュアルヘルスとは何であるか、調べておくこと(90分) [復習]講義の内容の振り返りを行うこと(90分)
6	ニヨンサバフラ	グローバルヘルスサービス(5);グローバルヘルスの視点から感染症と免疫	[予習]国際的に広がる感染症の現状について事前に調べておくこと(90分)

	ンソワ		[復習]講義の内容の振り返りを行うこと(90分)
7	田村 好史	グローバルヘルスサービス(6);グローバルヘルスの諸問題	[予習]世界的に問題となっている生活習慣病や肥満について調べ、解決策について各自考えをまとめておくこと(90分) [復習]講義の内容の振り返りを行うこと(90分)
8	大野 直子	グローバルヘルスサービス(7);外国人患者とのコミュニケーション	[予習]外国人患者とのコミュニケーションについて、事前に調べる こと(90分) [復習]講義の内容の振り返りを行うこと(90分)
9	玉村 健志	グローバル社会(1);国際関係論とは	[予習]戦争は不可避か否か、自分の意見を考えてくること(90分) [復習]講義の内容の振り返りを行うこと(90分)
10	大槻 茂美	グローバル社会(2);内なる国際化-多文化共生	[予習]多文化共生社会とはどのような社会であるのか、自分自身 で定義しておくこと(90分) [復習]講義の内容の振り返りを行うこと(90分)
11	岡部 大祐	異文化コミュニケーション(1);どうして「異文化コミュニケーション」を学ぶ?	[予習]なぜ「異文化コミュニケーション」を「学ぶ」必要があるのか、 1分程度で共有できるよう、自分の考えをまとめておく。(90分) [復習]講義の内容の振り返り、異文化コミュニケーションと健康の 関わりについて自分の考えをまとめておく。(90分)
12	齊藤 美野	異文化コミュニケーション(2);書きことばによるコミュニケーション(翻訳学)	[予習]「翻訳」の定義を調べ、身の回りにある翻訳の具体例を探 す。いずれもノートに書き出しておくこと(90分) [復習]講義の内容の振り返りを行うこと(90分)
13	吉武 尚美	文化とウェルビーイング	[予習]幸せとは何か、および幸せを高めるもの、低めるものにはど のようなものがあるか、考えをまとめておくこと(90分) [復習]講義の内容の振り返りを行うこと(90分)
14	高濱 愛	大規模公開オンライン講座(MOOC)の 魅力 —オンライン学習を海外留学や将来の キャリア形成に生かそう—	[予習]自分が知っていたり利用したりしたことのあるオンライン学習 サービスや方法について、ノートなどにリストアップしておく。(90分) [復習]講義内容の振り返りを行うこと。(90分)
15	佐々木 優	「経済のグローバル化」の光と影	[予習]今日の国際社会で起こっている経済的な出来事について調 べること(90分) [復習]授業の振り返りを行うこと(90分)
特別講義		(決定後、お知らせ予定)	
特別講義		(決定後、お知らせ予定)	
特別講義		(決定後、お知らせ予定)	
特別講義		(決定後、お知らせ予定)	
特別講義		(決定後、お知らせ予定)	
特別講義		(決定後、お知らせ予定)	
特別講義		(決定後、お知らせ予定)	

2020/08/03(月)11:45

授業科目名	基礎演習(プレゼンテーション)	授業形態	演習
英語科目名	Basic Seminar for Presentations	開講学期	前期
対象学年	1	単位数	1
科目責任者	岡部 大祐	ナンバリング	1002
科目担当者			
大概茂実・大野直子・岡部大祐・齊藤美野・白川正樹・白山芳久・鈴木美奈子・玉村健志・吉武尚美・伊東辰彦・高濱愛・佐々木優			
授業の概要			
<p>本授業では、グローバルな視点と専門性を身につけていく上での基本的な力として、(1)自らの見解を効果的に表現するプレゼンテーション・スキル、(2)異なる背景をもつ人との協働を可能にするファシリテーション・スキル、以上の2つのスキルの基礎を学ぶ。本授業で習得するスキルは、本学部の4つのディプロマ・ポリシー全てに関わるものであり、とりわけ、②「自分とは異なる人間や文化を理解しようと心を開き、多様性を尊重し、寛容さを持って相互交流を図ることのできる能力」、③「母語そして外国語でのコミュニケーション能力を駆使し、多様な人々と繋がり、自らの考えを論理的に説明し、相互の関係を築く能力」に焦点を当てている。</p> <p>プレゼンテーション・スキル： 受講生がプレゼンテーションを準備し、実施し、評価するという一連の過程を実際に経験しながら、プレゼンテーションを行うために必要な基本的な知識・スキルを習得するためのものである。本授業で特に重視するのが、共有する前提が異なる可能性があるオーディエンス(聞き手)に対して、興味深く、わかりやすく、論理的な中身を構築することである。グローバル社会で効果的なプレゼンテーションを行ううえで鍵となるのは、外国語運用能力以上に、説得力のある中身を用意し、それを効果的な情報提示のパターンに沿って示すことである。そのため、グループでの学習を多用し、意見(主張)、理由、データという主張タイプのプレゼンテーションを構成する主要構成要素を多様な視点から検討する力を日本語を用い徹底的に鍛えていく。加えて、その中身を効果的に伝えるための言語および非言語コミュニケーション・スキルの習得を目指す。</p> <p>ファシリテーション・スキル： グローバル化、多文化化が進展する社会において、集団・組織のメンバーが持つ多様性を尊重し、それを活かしながら、合意を形成し、他者と連携・協働していく能力が求められている。そのため、集団・組織のメンバー間の知的相互作用を促進する働きを持つ「ファシリテーション」が経営、教育、環境、医療、住民参加といった分野で注目を集めている。本授業は、グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービスに関連するトピックについて小グループで話し合いながら、ファシリテーションの基本的な考え方やスキルを学ぶものである。</p>			
授業の達成目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーションに使われる説得タイプの型(情報提示のパターン)を活用しながら、自分の意見を効果的に伝えることができる。 2. 自分の意見、それを支える根拠を興味深く、説得力があるものとするため、リサーチを行うことができる。 3. グループワーク及びリサーチを通じて、視野の広さ、多面的かつ批判的な思考力を身につけ、多様な考え方を検討したうえで、主体的に自説を構築し、オーディエンスにわかりやすく説明できる。 4. ファシリテーションの考え方、実施の手順及びポイントを理解し、実践できる。 5. グループワーク及び共同リサーチを介して、グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービスに関連するトピックについて多様な視点から考える思考の柔軟性と他者とともに考えを深めるコミュニケーション能力を身につけ、それらを実践できる。 			
成績評価方法			
個人プレゼンテーション(20%)、グループ・プレゼンテーション(20%)、ファイナル・リフレクション・ペーパー(20%)、ログ・ブック(20%)、授業参加度(20%)の合計点に基づき評価する。なお、3分の2以上の出席を評価の前提条件とし、欠席は減点とする。			
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)			
受講生は授業にて自らの意見を積極的に述べ、他の受講生に対して自説を丁寧に説明する姿勢を持つこと。新聞記事・論文等の読解や情報収集(リサーチ)の課題がある場合には周到に準備し授業に臨むこと。他の受講生との共同作業が多いため、他の受講生と積極的にコミュニケーションを取ること			
テキスト・参考書			
教科書：なし。必要に応じて教材を配布する			
参考書：以下を参照のこと			
<p>プレゼンテーション</p> <p>福澤一吉(2018)『新版 議論のレッスン』NHK出版。</p> <p>梅嶋真樹・山中保一・仁藤亜里・鈴鹿高校テキスト編集委員会(2015)『論理コミュニケーション 第2版』慶應義塾大学出版会</p> <p>Makiko Tanaka(2012) The essential guide for academic presentations. Macmillan.</p>			
<p>ファシリテーション</p> <p>中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美(2009)『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとこころ』岩波書店</p> <p>堀公俊(2018)『ファシリテーション入門 第2版』日本経済新聞社(日経文庫)</p> <p>中野民夫『ファシリテーション革命』(2003、岩波アクティブ新書)</p>			

森時彦(2007)『ファシリテーター養成講座』ダイヤモンド社			
Schwarz, R. (2002) The skilled facilitator. Jossey-Bass.			
オフィスアワー			
専任教員のオフィスアワー一覧を参照のこと。			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法			
プレゼンテーション及びファシリテーションの実践に対しては授業内に評価・改善点を伝える。提出課題については締め切り後、後期開始時までを目処に評価や改善点をフィードバックする。			
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】			
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)
1	上記担当教員	「基礎演習」の導入(1) 1. コース全体の説明; 2. なぜプレゼンテーションと「ファシリテーション」が必要かを考え、コースの目的を理解する;	【予習】 第1回目の授業までにシラバスを確認し、コースの目的を理解しておく。(90分) 【復習】 講義内に配布する授業計画を再度読み、授業全体のイメージを掴む。(90分)
2	上記担当教員	「基礎演習」の導入(2) 1. プレゼンテーションの基礎:a)説得型プレゼンテーションの型、b)アウトラインの作成方法、c)アイデア出しの方法を学ぶ	【予習】 プレゼンテーションとは何かを複数の文献で調べてくる(90分) 【復習】 コースで習得するスキルがグローバル市民にとってもつ意義を自分の言葉でまとめる。(90分)
3	上記担当教員	より説得力を高める方法(1) 質の高い根拠を得るための調査:テーマを理解し、主張を裏付ける(目的を達成するため)に必要な調査の考え方・方法について学ぶ	【予習】 説得的プレゼンテーションの型に沿って自己PRを準備してくる。(90分)【復習】 授業で扱ったデータベースを自分で使ってみる。(90分)
4	上記担当教員	より説得力を高める方法(2) 精緻な議論のための批判:意見、根拠、事例の妥当性を批判的かつ多面的に検討することを学ぶ	【予習】 説得的プレゼンテーションの型に沿って自己PRを準備してくる。(90分)【復習】 第1回～第4回までに学んだプレゼンテーションの基礎となるスキルを確認し、個人プレゼンテーションに備える。(90分)
5	上記担当教員	個人プレゼンテーション(1) 1. 個別クラスに分かれ、第1回から第4回までの授業を振り返り、受講生が自由にテーマを選ぶ形で、クラス内で小グループに分かれて第1回個人プレゼンテーション(3分/人)を行う; 2. 特に論証構造と根拠の質に焦点化したフィードバックを相互に行い、アウトラインを洗練させる	【予習】 自分の選んだテーマについてのプレゼンテーションの準備をしていく。(120分) 【復習】 クラスでのフィードバックを踏まえ、自分のプレゼンテーションのアウトラインを書き直す。さらなるリサーチを行う。(120分)
6	上記担当教員	個人プレゼンテーション(2) 1. 第5回の授業で得た論証構造へのフィードバック、さらなるリサーチの結果を反映させ、クラス内で小グループに分かれて第2回個人プレゼンテーション(3分/人)を行う; 2. 特にスタイルとデリバリーに焦点化したフィードバックを相互に行い、デリバリーのスキルを洗練させる	【予習】 自分の選んだテーマについてのプレゼンテーションの準備をしていく。(120分) 【復習】 クラスでのフィードバックを踏まえ、自分のプレゼンテーションのスタイルとデリバリーを見直す。リハーサルを行う(120分)
7	上記担当教員	個人プレゼンテーション(3)スキルチェック 1. 第1回～第6回までのトレーニングを反映させ、クラス全体に対して個人プレゼンテーション(3分/人)を行う。教員によるパフォーマンス評価あり; 2. 受講生のプレゼンテーションに対して相互評価を行う。クラス代表の選出をする	【予習】 自分の選んだテーマについてのプレゼンテーションの準備をしていく。(120分) 【復習】 第1回～第7回までのポイントを整理し、ログ・ブックにまとめる。(90分)

8	上記担当教員	<p>クラス代表によるプレゼンテーションと総括</p> <p>1. 各クラスから代表者によるプレゼンテーションを視聴し、評価する</p> <p>2. クラス担当教員より前半のフィードバックを受け、個々人のプレゼンテーションの課題を明確化し、グループ・プレゼンテーションの準備を開始する</p>	<p>【予習】 これまでログ・ブックに記載した内容を確認して授業に臨む。(30分)</p> <p>【復習】 各クラス代表のプレゼンテーションを見て、自分が真似したいスキルをログ・ブックにまとめる(30分)。</p>
9	上記担当教員	<p>ファシリテーション導入</p> <p>グループ・プレゼンテーション準備に必要なとなるファシリテーション・スキルの概要を学ぶ(OARR(オール)、役割、基本スキル、心構え)</p>	<p>【予習】 ファシリテーションとは何かを複数の文献で調べ、エッセンスを一文で表現できるように準備してくる。(60分)</p> <p>【復習】 授業を振り返り、ファシリテーターとして必要な心構えをログ・ブックにまとめておく。(60分)</p>
10	上記担当教員	<p>ファシリテーション・スキルの基礎(1)</p> <p>グループ・プレゼンテーションの準備を通じてファシリテーションの実践を行う(OARR(オール)を実践する)</p>	<p>【予習】 ファシリテーターのスキルとしてどのようなものがあるかを複数の文献で調べ、ノートにまとめておく(90分)</p> <p>【復習】 今日の授業のワークをOARRに照らしてログ・ブックに記述し、評価する。(90分)</p>
11	上記担当教員	<p>ファシリテーション・スキルの基礎(2)</p> <p>グループ・プレゼンテーションの準備を通じてファシリテーションの実践を行う(場のデザインしてみる)</p>	<p>【予習】 どのような場・雰囲気であれば話し合いがしやすいか、自分の経験を振り返り、ノートにまとめておく。(90分)</p> <p>【復習】 今日の授業のワークを場のデザインという観点からログ・ブックに記述し、評価する。(90分)</p>
12	上記担当教員	<p>ファシリテーション・スキルの基礎(3)</p> <p>グループ・プレゼンテーションの準備を通じてファシリテーションの実践を行う(多様なアイデアをまとめてみる)</p>	<p>【予習】 これまでの経験を振り返り、異なる意見がどのようにまとまったか(まとまらなかったか)をノートにまとめておく(90分)</p> <p>【復習】 第10～12回までのグループでのワークをファシリテーション・スキルに照らして評価し、ログ・ブックに記述する。(90分)</p>
13	上記担当教員	<p>「基礎演習」総括とプレゼンテーション準備</p> <p>各クラス担当者から全体を通じてのフィードバックを得た上で、グループ・プレゼンテーションの準備(資料作成、リハーサル)を行う</p>	<p>【予習】 グループ・プレゼンテーションにおける自分の役割の準備をし、くる。(90分)</p> <p>【復習】 ログ・ブックを確認し、グループ・プレゼンテーションに向けての自分の課題を確認する(90分)</p>
14	上記担当教員	<p>グループ・プレゼンテーションを実施する</p> <p>1.一グループ8～10分(質疑応答含め最大12分まで)5クラスが発表</p> <p>2. 受講生による質疑応答、担当教員からのフィードバックを行う</p>	<p>【予習】 グループ・プレゼンテーションの準備をする(120分)。</p> <p>【復習】 プレゼンテーションを振り返り、評価できる点と改善点を整理し、次にプレゼンテーションを行う際に活かせるように記録しておく。(90分)</p>
15	上記担当教員	<p>グループ・プレゼンテーションを実施する</p> <p>1.一グループ8～10分(質疑応答含め最大12分まで)4クラスが発表</p> <p>2. 受講生による質疑応答、担当教員からのフィードバックを行う</p>	<p>【予習】 グループ・プレゼンテーションの準備をする(120分)。</p> <p>【復習】 プレゼンテーションを振り返り、評価できる点と改善点を整理し、次にプレゼンテーションを行う際に活かせるように記録しておく。(90分)</p>

2020/08/03(月)11:46

授業科目名	基礎演習(ファシリテーション)	授業形態	演習
英語科目名	Basic Seminar for Facilitation	開講学期	前期
対象学年	1	単位数	1
科目責任者	岡部 大祐	ナンバリング	1003
科目担当者			
大概茂実・大野直子・岡部大祐・齊藤美野・白川正樹・白山芳久・鈴木美奈子・玉村健志・吉武尚美・伊東辰彦・高濱愛・佐々木優			
授業の概要			
<p>本授業では、グローバルな視点と専門性を身につけていく上での基本的な力として、(1)自らの見解を効果的に表現するプレゼンテーション・スキル、(2)異なる背景をもつ人との協働を可能にするファシリテーション・スキル、以上の2つのスキルの基礎を学ぶ。本授業で習得するスキルは、本学部の4つのディプロマ・ポリシー全てに関わるものであり、とりわけ、②「自分とは異なる人間や文化を理解しようと心を開き、多様性を尊重し、寛容さを持って相互交流を図ることのできる能力」、③「母語そして外国語でのコミュニケーション能力を駆使し、多様な人々と繋がり、自らの考えを論理的に説明し、相互の関係を築く能力」に焦点を当てている。</p> <p>プレゼンテーション・スキル： 受講生がプレゼンテーションを準備し、実施し、評価するという一連の過程を実際に経験しながら、プレゼンテーションを行うために必要な基本的な知識・スキルを習得するためのものである。本授業で特に重視するのが、共有する前提が異なる可能性があるオーディエンス(聞き手)に対して、興味深く、わかりやすく、論理的な中身を構築することである。グローバル社会で効果的なプレゼンテーションを行ううえで鍵となるのは、外国語運用能力以上に、説得力のある中身を用意し、それを効果的な情報提示のパターンに沿って示すことである。そのため、グループでの学習を多用し、意見(主張)、理由、データという主張タイプのプレゼンテーションを構成する主要構成要素を多様な視点から検討する力を日本語を用い徹底的に鍛えていく。加えて、その中身を効果的に伝えるための言語および非言語コミュニケーション・スキルの習得を目指す。</p> <p>ファシリテーション・スキル： グローバル化、多文化化が進展する社会において、集団・組織のメンバーが持つ多様性を尊重し、それを活かしながら、合意を形成し、他者と連携・協働していく能力が求められている。そのため、集団・組織のメンバー間の知的相互作用を促進する働きを持つ「ファシリテーション」が経営、教育、環境、医療、住民参加といった分野で注目を集めている。本授業は、グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービスに関連するトピックについて小グループで話し合いながら、ファシリテーションの基本的な考え方やスキルを学ぶものである。</p>			
授業の達成目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーションに使われる説得タイプの型(情報提示のパターン)を活用しながら、自分の意見を効果的に伝えることができる。 2. 自分の意見、それを支える根拠を興味深く、説得力があるものとするため、リサーチを行うことができる。 3. グループワーク及びリサーチを通じて、視野の広さ、多面的かつ批判的な思考力を身につけ、多様な考え方を検討したうえで、主体的に自説を構築し、オーディエンスにわかりやすく説明できる。 4. ファシリテーションの考え方、実施の手順及びポイントを理解し、実践できる。 5. グループワーク及び共同リサーチを介して、グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービスに関連するトピックについて多様な視点から考える思考の柔軟性と他者とともに考えを深めるコミュニケーション能力を身につけ、それらを実践できる。 			
成績評価方法			
個人プレゼンテーション(20%)、グループ・プレゼンテーション(20%)、ファイナル・リフレクション・ペーパー(20%)、ログ・ブック(20%)、授業参加度(20%)の合計点に基づき評価する。なお、3分の2以上の出席を評価の前提条件とし、欠席は減点とする。			
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)			
受講生は授業にて自らの意見を積極的に述べ、他の受講生に対して自説を丁寧に説明する姿勢を持つこと。新聞記事・論文等の読解や情報収集(リサーチ)の課題がある場合には周到に準備し授業に臨むこと。他の受講生との共同作業が多いため、他の受講生と積極的にコミュニケーションを取ること			
テキスト・参考書			
教科書：なし。必要に応じて教材を配布する			
参考書：以下を参照のこと			
<p>プレゼンテーション</p> <p>福澤一吉(2018)『新版 議論のレッスン』NHK出版。</p> <p>梅嶋真樹・山中保一・仁藤亜里・鈴鹿高校テキスト編集委員会(2015)『論理コミュニケーション 第2版』慶應義塾大学出版会</p> <p>Makiko Tanaka(2012) The essential guide for academic presentations. Macmillan.</p> <p>ファシリテーション</p> <p>中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美(2009)『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとこころ』岩波書店</p> <p>堀公俊(2018)『ファシリテーション入門 第2版』日本経済新聞社(日経文庫)</p> <p>中野民夫『ファシリテーション革命』(2003、岩波アクティブ新書)</p>			

森時彦(2007)『ファシリテーター養成講座』ダイヤモンド社			
Schwarz, R. (2002) The skilled facilitator. Jossey-Bass.			
オフィスアワー			
専任教員のオフィスアワー一覧を参照のこと。			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法			
プレゼンテーション及びファシリテーションの実践に対しては授業内に評価・改善点を伝える。提出課題については締め切り後、後期開始時までを目処に評価や改善点をフィードバックする。			
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】			
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)
1	上記担当教員	「基礎演習」の導入(1) 1. コース全体の説明; 2. なぜプレゼンテーションと「ファシリテーション」が必要かを考え、コースの目的を理解する;	【予習】 第1回目の授業までにシラバスを確認し、コースの目的を理解しておく。(90分) 【復習】 講義内に配布する授業計画を再度読み、授業全体のイメージを掴む。(90分)
2	上記担当教員	「基礎演習」の導入(2) 1. プレゼンテーションの基礎:a)説得型プレゼンテーションの型、b)アウトラインの作成方法、c)アイデア出しの方法を学ぶ	【予習】 プレゼンテーションとは何かを複数の文献で調べてくる(90分) 【復習】 コースで習得するスキルがグローバル市民にとってもつ意義を自分の言葉でまとめる。(90分)
3	上記担当教員	より説得力を高める方法(1) 質の高い根拠を得るための調査: テーマを理解し、主張を裏付ける(目的を達成するため)に必要な調査の考え方・方法について学ぶ	【予習】 説得的プレゼンテーションの型に沿って自己PRを準備してくる。(90分)【復習】 授業で扱ったデータベースを自分で使ってみる。(90分)
4	上記担当教員	より説得力を高める方法(2) 精緻な議論のための批判: 意見、根拠、事例の妥当性を批判的かつ多面的に検討することを学ぶ	【予習】 説得的プレゼンテーションの型に沿って自己PRを準備してくる。(90分)【復習】 第1回～第4回までに学んだプレゼンテーションの基礎となるスキルを確認し、個人プレゼンテーションに備える。(90分)
5	上記担当教員	個人プレゼンテーション(1) 1. 個別クラスに分かれ、第1回から第4回までの授業を振り返り、受講生が自由にテーマを選ぶ形で、クラス内で小グループに分かれて第1回個人プレゼンテーション(3分/人)を行う; 2. 特に論証構造と根拠の質に焦点化したフィードバックを相互に行い、アウトラインを洗練させる	【予習】 自分の選んだテーマについてのプレゼンテーションの準備をしてくる。(120分) 【復習】 クラスでのフィードバックを踏まえ、自分のプレゼンテーションのアウトラインを書き直す。さらなるリサーチを行う。(120分)
6	上記担当教員	個人プレゼンテーション(2) 1. 第5回の授業で得た論証構造へのフィードバック、さらなるリサーチの結果を反映させ、クラス内で小グループに分かれて第2回個人プレゼンテーション(3分/人)を行う; 2. 特にスタイルとデリバリーに焦点化したフィードバックを相互に行い、デリバリーのスキルを洗練させる	【予習】 自分の選んだテーマについてのプレゼンテーションの準備をしてくる。(120分) 【復習】 クラスでのフィードバックを踏まえ、自分のプレゼンテーションのスタイルとデリバリーを見直す。リハーサルを行う(120分)
7	上記担当教員	個人プレゼンテーション(3)スキルチェック 1. 第1回～第6回までのトレーニングを反映させ、クラス全体に対して個人プレゼンテーション(3分/人)を行う。教員によるパフォーマンス評価あり; 2. 受講生のプレゼンテーションに対して相互評価を行う。クラス代表の選出をする	【予習】 自分の選んだテーマについてのプレゼンテーションの準備をしてくる。(120分) 【復習】 第1回～第7回までのポイントを整理し、ログ・ブックにまとめる。(90分)

8	上記担当教員	<p>クラス代表によるプレゼンテーションと総括</p> <p>1. 各クラスから代表者によるプレゼンテーションを視聴し、評価する</p> <p>2. クラス担当教員より前半のフィードバックを受け、個々人のプレゼンテーションの課題を明確化し、グループ・プレゼンテーションの準備を開始する</p>	<p>【予習】 これまでログ・ブックに記載した内容を確認して授業に臨む。(30分)</p> <p>【復習】 各クラス代表のプレゼンテーションを見て、自分が真似したいスキルをログ・ブックにまとめる(30分)。</p>
9	上記担当教員	<p>ファシリテーション導入</p> <p>グループ・プレゼンテーション準備に必要なとなるファシリテーション・スキルの概要を学ぶ(OARR(オール)、役割、基本スキル、心構え)</p>	<p>【予習】 ファシリテーションとは何かを複数の文献で調べ、エッセンスを一文で表現できるように準備してくる。(60分)</p> <p>【復習】 授業を振り返り、ファシリテーターとして必要な心構えをログ・ブックにまとめておく。(60分)</p>
10	上記担当教員	<p>ファシリテーション・スキルの基礎(1)</p> <p>グループ・プレゼンテーションの準備を通じてファシリテーションの実践を行う(OARR(オール)を実践する)</p>	<p>【予習】 ファシリテーターのスキルとしてどのようなものがあるかを複数の文献で調べ、ノートにまとめておく(90分)</p> <p>【復習】 今日の授業のワークをOARRに照らしてログ・ブックに記述し、評価する。(90分)</p>
11	上記担当教員	<p>ファシリテーション・スキルの基礎(2)</p> <p>グループ・プレゼンテーションの準備を通じてファシリテーションの実践を行う(場のデザインしてみる)</p>	<p>【予習】 どのような場・雰囲気であれば話し合いがしやすいか、自分の経験を振り返り、ノートにまとめておく。(90分)</p> <p>【復習】 今日の授業のワークを場のデザインという観点からログ・ブックに記述し、評価する。(90分)</p>
12	上記担当教員	<p>ファシリテーション・スキルの基礎(3)</p> <p>グループ・プレゼンテーションの準備を通じてファシリテーションの実践を行う(多様なアイデアをまとめてみる)</p>	<p>【予習】 これまでの経験を振り返り、異なる意見がどのようにまとまったか(まとまらなかったか)をノートにまとめておく(90分)</p> <p>【復習】 第10～12回までのグループでのワークをファシリテーション・スキルに照らして評価し、ログ・ブックに記述する。(90分)</p>
13	上記担当教員	<p>「基礎演習」総括とプレゼンテーション準備</p> <p>各クラス担当者から全体を通じてのフィードバックを得た上で、グループ・プレゼンテーションの準備(資料作成、リハーサル)を行う</p>	<p>【予習】 グループ・プレゼンテーションにおける自分の役割の準備をし、(90分)</p> <p>【復習】 ログ・ブックを確認し、グループ・プレゼンテーションに向けての自分の課題を確認する(90分)</p>
14	上記担当教員	<p>グループ・プレゼンテーションを実施する</p> <p>1.一グループ8～10分(質疑応答含め最大12分まで)5クラスが発表</p> <p>2. 受講生による質疑応答、担当教員からのフィードバックを行う</p>	<p>【予習】 グループ・プレゼンテーションの準備をする(120分)。</p> <p>【復習】 プレゼンテーションを振り返り、評価できる点と改善点を整理し、次にプレゼンテーションを行う際に活かせるように記録しておく。(90分)</p>
15	上記担当教員	<p>グループ・プレゼンテーションを実施する</p> <p>1.一グループ8～10分(質疑応答含め最大12分まで)4クラスが発表</p> <p>2. 受講生による質疑応答、担当教員からのフィードバックを行う</p>	<p>【予習】 グループ・プレゼンテーションの準備をする(120分)。</p> <p>【復習】 プレゼンテーションを振り返り、評価できる点と改善点を整理し、次にプレゼンテーションを行う際に活かせるように記録しておく。(90分)</p>

2020/07/30(木)11:06

授業科目名	文章表現法・論文/レポートの書き方	授業形態	講義
英語科目名	Japanese Writing	開講学期	前期
対象学年	1	単位数	2
科目責任者	大北 葉子	ナンバリング	1004
科目担当者			
大北葉子、湯浅資之、岡部大祐、齋藤美野、白山芳久			
授業の概要			
<p>本講義は「演習」です。基本的に様々な学問分野の資料を読んで、多面的な知識と考え方を学び、それについて自分の意見を記述します。</p> <p>【分析力】 国際的に活躍する人間になるためには、国際的な視点から多角的に物事を分析する知識と思考力が必要です。具体的には、①日本及び他国の歴史、文化、習慣、価値観、地理、経済、医療などについて様々な物事が複雑に結びついていることを学び②人生100年を生きて行くために、自分自身の特徴、目標、人生設計について考える力、③他人や他国など様々な立場の人について考え受け入れる能力を身につけます。</p> <p>【コミュニケーション能力】 コミュニケーション能力とは、自分の考えを正確に立場の違う他者に伝えることができる能力です。本講義では日本語による論理的な文章の読解力と記述力を身につけます。母語のコミュニケーション能力は外国語のコミュニケーション能力に影響します。</p> <p>【論文・レポートの書き方】 大学で学ぶ重要なことの一つは論文・レポートの書き方です。論文の書き方は分野によって異なりますが、基本的な構造は同じです。剽窃(他人のものを引用なく使うコピー)、引用の仕方、問い立て(Research Question)、論文の構成(序論 方法 結果 議論 結論)について学びます。</p>			
授業の達成目標			
<p>大学でのレポートや卒業論文及び社会生活(手紙の書き方、敬語表現など)に必要な読解力と正確に自分の考えを伝えるための文章表現力を身につけます。</p> <p>具体的には以下を目標にします</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)国内外で起きている物事について幅広く興味を持つ(好奇心を持つ) 2)いつも「なぜ」と問いを立てる 3)自分、他人、社会を客観的に多面的に分析できる 4)自分の意見とその根拠・理由を明確に記述することができる 5)文章の要点をつかみ自分の言葉で要約、書き換えができる 			
成績評価方法			
<p>授業参加度30% 宿題40% 最終課題30%</p> <p>●文章の評価方法 授業課題及び最終課題は添削後に提出されたものを評価対象とします。 文章評価基準(各5点満点) ① 文法(助詞の使い方)の正確さ ② 漢字(適切に使われているか) ③ 文章の論理性(話の筋道が通っているか) ④ 多角的な視点から議論されているか</p> <p>●授業参加度 授業中の私語、食事、ゲーム、居眠りは減点となります。 レスポンの応答内容と回数は参加度に計算されます。</p> <p>●課題提出 提出期日に提出されなかった提出課題はゼロ点となります。 提出期日に欠席した場合は、1週間以内に欠席届を出し、提出物を提出すること。欠席届及び提出課題が1週間以内に提出されない場合は、提出課題はゼロ点となります。</p> <p>「コメントをよく読んで解答してください」のコメント1回で 1点満点で0.25点減点します。 「資料をよく読んでから解答してください。」のコメント1回で 1点満点で0.25点減点します。 再提出しない宿題は1回の宿題につき1点満点で0.5点になります。</p>			

履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)

【欠席・遅刻・早退】

欠席: 1週間以内に欠席届を提出してください。
遅刻・早退: 当日遅刻早退届を提出してください。
正当な理由がない20分以上の遅刻早退は出席点が50%減点となります。

【予習・復習】

予習:
復習: 授業で読んだ課題文章を読み返し、漢字や語句の意味や読み方を覚えます。

テキスト・参考書

授業で資料配付します。

オフィスアワー

教員にメールなどで面談時間の予約を取ってください。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法

適宜授業中に返却します。

授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】

授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)
1 5/14	大北 葉子	オリエンテーション メールの書き方 次回課題資料配付	【予習】初回なのでなし。 【復習】授業で学んだことを見直して、宿題をする。授業中に課題を提出できなかった学生は課題を終了させる。(90分)
2 5/21	大北 葉子	翻訳教室	【予習】前回配布された資料を読むこと。(90分) 【復習】授業で学んだことを見直して、宿題をする。授業中に課題を提出できなかった学生は課題を終了させること。(90分)
3 5/28	大北 葉子	コミュニケーション	【予習】前回配布された資料を読むこと。(90分) 【復習】授業で学んだことを見直して、宿題をすること。授業中に課題を提出できなかった学生は課題を終了させること。(90分)
4 6/4	大北 葉子	自殺論	【予習】前回配布された資料を読むこと。(90分) 【復習】授業で学んだことを見直して、宿題をすること。授業中に課題を提出できなかった学生は課題を終了させること。(90分)
5 6/11	大北 葉子	孤独なボウリング	【予習】前回配布された資料を読むこと。(90分) 【復習】授業で学んだことを見直して、宿題をすること。授業中に課題を提出できなかった学生は課題を終了させること。(90分)
6 6/18	大北 葉子	国際保健医療学	【予習】前回配布された資料を読むこと。(90分) 【復習】授業で学んだことを見直して、宿題をすること。授業中に課題を提出できなかった学生は課題を終了させること。(90分)
7 6/25	大北 葉子	臨床社会心理学入門	【予習】前回配布された資料を読むこと。(90分) 【復習】授業で学んだことを見直して、宿題をすること。授業中に課題を提出できなかった学生は課題を終了させること。(90分)
8 7/2	大北 葉子	大人になる前に知る性について	【予習】「論文」と「レポート」の類似点・相違点について調べ、授業で発表できる準備しておくこと(90分) 【復習】授業で扱われた箇所に該当する「論文・レポートの書き方」の項数を授業で指示するので読んでおくこと(90分)
9 7/9	大北 葉子	信頼社会	【予習】「順天堂大学国際教養学部:論文/レポートの書き方の手引き」の「言葉の用い方に気をつけよう」「出典を正しく示そう」「文献リストを付けよう」の3つの項を読み、理解しておくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
10 7/16	大北 葉子	レジリエンス	【予習】「国際教養学部:論文/レポートの書き方の手引き」の「研究テーマの決め方」「データの検索のやり方」「研究方法」の項を事前に読んでおくこと(90分) 【復習】授業内容の振り返りを行うこと(90分)
11 7/30	大北 葉子	感情の正体	【予習】前回配布された資料を読むこと。(90分) 【復習】授業で学んだことを見直して、宿題をすること。授業中に課題を提出できなかった学生は課題を終了させること。(90分)

12 8/6	大北 葉子	現代社会と運動不足	【予習】前回配布された資料を読むこと。(90分) 【復習】授業で学んだことを見直して、宿題をすること。授業中に課題を提出できなかった学生は課題を終了させること。(90分)
13	岡部 大祐	人文社会科学系研究(1)—論文を書くとはどういうことか、分野により多様な研究方法があること、文献引用の重要性、剽窃についての注意	【予習】前回配布された資料を読むこと。(90分) 【復習】授業で学んだことを見直して、宿題をすること。授業中に課題を提出できなかった学生は課題を終了させること。(90分)
14	齋藤 美野	人文社会科学系研究(2)—論文を書くとはどういうことか、分野により多様な研究方法があること、文献引用の重要性、剽窃についての注意	【最終課題】草稿提出 【予習】前回配布された資料を読むこと。(90分) 【復習】授業で学んだことを見直して、宿題をすること。授業中に課題を提出できなかった学生は課題を終了させること。(90分)
15	白山 芳久	医学・自然科学系研究—研究テーマの絞り方、データ・情報の探し方(PubMedの利用方法)、研究方法	【予習】前回配布された資料を読むこと。(90分) 【最終課題】最終課題を書き直して8月7日までに提出すること(90分)

2020/02/21(金)14:02

授業科目名	スポーツ理論・実技I		授業形態	実習
英語科目名	Sports Theory and Skills I		開講学期	前期
対象学年	1		単位数	1
科目責任者	青木 和浩		ナンバリング	1005
科目担当者				
青木 和浩 他				
授業の概要				
健康づくりやスポーツの基礎となる体力を高めるためのトレーニングの基礎理論ならびに方法論について、教室での講義や体育館での実技・実習を通して理解を深める。また、各自の主体的なトレーニング実践のための学習として、個人の体力や目的に応じた様々なトレーニングの活用方法についても学習する。さらに、各種実技を通してコミュニケーションの促進についても学習する。				
授業の達成目標				
1.健康づくりや体カトレーニングの基礎理論ならびに方法論、個人の体力や目的に応じた様々なトレーニングの活用方法を理解し、各自の主体的なトレーニング実践において本授業で学習した知識と実践を応用することができる。 2.各種実技を通してコミュニケーションについて学ぶことで、将来における職場で必要とされるコミュニケーション能力の基礎づくりができる。				
成績評価方法				
1.成績評価方法 授業内容ごとの評価(計80%)、期末レポート課題(20%) なお、成績評価には全授業回数の2/3以上の出席を要する。				
2.成績評価基準 健康づくりや体カトレーニングの基礎理論ならびに方法論を理解し実践できているか。 各種実技を通してコミュニケーションが円滑に行われるようになっているか。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
実技や実習では運動に適した服装と体育館用シューズを準備すること。 実技や実習では安全面に十分配慮して行動すること。特にトレーニング用具使用の際は使用方法を遵守すること。 授業内容は教場や天候等の状況により前後することもある。				
テキスト・参考書				
必要に応じて資料を配布する。				
オフィスアワー				
さくらキャンパス1号館5階1509室 水曜 12:00~12:50				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業内で適宜返却していく。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	青木 和浩 他	ガイダンス	(予習)シラバスの内容を熟読する。(90分) (復習)授業概要や実施上の留意点について確認する。(90分)	
2	青木 和浩 他	スポーツ・レクリエーション① レクリエーションゲーム	(予習)アイスプレイングについて予習する。(90分) (復習)ゲーム実施前後のコミュニケーションの変化について振り返る。(90分)	
3	青木 和浩 他	体力・運動能力の測定 体力とは・体力測定	(予習)体力の分類について予習する。(90分) (復習)各自の測定値の評価を行う。(90分)	
4	青木 和浩 他	体カトレーニング① ストレッチング	((予習)柔軟性について予習する。(90分) (復習)ストレッチングの方法と効果について復習する。(90分)	
5	青木 和浩 他	体カトレーニング② ウォーキング・ランニング	(予習)有酸素運動の効果について予習する。(90分) (復習)ウォーキング・ランニングの効果と実施上の留意点について復習する。(90分)	
6	青木 和浩 他	体カトレーニング③ 自重を用いた筋カトレーニング	(予習)筋カトレーニングの効果について予習する。(90分) (復習)筋カトレーニングの効果と実施上の留意点について復習する。(90分)	

7	青木 和浩 他	体カトレーニング④ 用具を用いた筋カトレーニング	(予習)筋カトレーニングの種類と用いる用具について予習する。(90分) (復習)用具を用いる際の安全上の留意点について復習する。(90分)
8	青木 和浩 他	体カトレーニング⑤ 体力や目的に応じた運動処方①	(予習)各自の測定値を確認しておく。(90分) (復習)トレーニング内容の強度や回数が適切に行うことができたかを振り返る。(90分)
9	青木 和浩 他	体カトレーニング⑥ 体力や目的に応じた運動処方②	(予習)前回のトレーニング内容を元に、トレーニングを計画する。(90分) (復習)体カトレーニングについての授業内容を総合的にまとめる。(90分)
10	青木 和浩 他	スポーツ・レクリエーション② パラスポーツ(障がい者スポーツ)	(予習)パラスポーツ(障がい者スポーツ)について調べておく。(90分) (復習)障がいのある方と健常者がともにスポーツを楽しむための配慮について整理し理解を深める。(90分)
11	青木 和浩 他	スポーツ・レクリエーション③ ニュースポーツ① スラックライン	(予習)スラックラインについて予習する。(90分) (復習)スラックラインを楽しむためのポイントについて整理する。(90分)
12	青木 和浩 他	スポーツ・レクリエーション④ ニュースポーツ② ベタンク・カップ	(予習)ベタンク・カップについて予習する。(90分) (復習)ベタンク・カップを楽しむためのポイントについて整理する。(90分)
13	青木 和浩 他	スポーツ・レクリエーション⑤ バレーボール① 基本技能・ミニゲーム	(予習)バレーボールの基本技能について予習する。(90分) (復習)基本技能の上達のポイントについて復習する。(90分)
14	青木 和浩 他	スポーツ・レクリエーション⑥ バレーボール② ゲーム	(予習)ルールについて予習する。(90分) (復習)各チームでゲームの内容を振り返る。(90分)
15	青木 和浩 他	スポーツ・レクリエーション⑦ バレーボール③ ゲーム 全体のまとめ	(予習)前回のゲーム結果に基づいて次回のゲームの作戦を立てる。(90分) (復習)これまでの授業内容を総合的にまとめる。(90分) (課題)期日までにレポートを提出する。

2020/02/21(金)14:04

授業科目名	スポーツ理論・実技II		授業形態	実習
英語科目名	Sports Theory and Skills II		開講学期	後期
対象学年	1		単位数	1
科目責任者	青木 和浩		ナンバリング	1006
科目担当者				
青木 和浩 他				
授業の概要				
各種スポーツの実践を通して、各自の体力や技能に応じたスポーツの取り組み方を学ぶとともに、生涯にわたりスポーツに親しみ主体的に実践していく態度について理解を深める。また、各種スポーツにおけるグループでの活動やゲームルールの理解と実践を通して対人関係や社会性・協調性についても理解を深める。				
授業の達成目標				
1.各種スポーツの実践を通して、スポーツへの取り組み方を学ぶとともに生涯にわたりスポーツに親しみ主体的に実践していく態度について理解し、今後のスポーツ活動に応用できる。 2.各種実技を通して対人関係や社会性・協調性について学ぶことで、将来における職場で必要とされる社会的スキルの基礎づくりができる。				
成績評価方法				
1.成績評価方法 授業内容ごとの評価(計80%)、期末レポート課題(20%) なお、成績評価には全授業回数の2/3以上の出席を要する。				
2.成績評価基準 スポーツへの取り組み方を学び主体的に実践する態度を身につけているか。 各種実技を通して社会的スキルの基礎づくりができているか。				
履修上の注意(受講条件・受講に当たって学生に望むこと)				
運動に適した服装と体育館用シューズを準備すること。 安全面に十分配慮して行動すること。特に器具使用の際は使用方法を遵守すること。 授業内容は教場や天候等の状況により前後することもある。				
テキスト・参考書				
必要に応じて資料を配布する。				
オフィスアワー				
さくらキャンパス1号館5階1509室 水曜 12:00~12:50				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法				
授業内で適宜返却していく。				
授業計画【授業内容と授業時間外の指導等】				
授業回数	担当	授業内容	授業時間外の指導等(予習、復習レポート等課題の指示)	
1	青木 和浩 他	ガイダンス	(予習)シラバスの内容を熟読する。(90分) (復習)授業概要や実施上の留意点について確認する。(90分)	
2	青木 和浩 他	スポーツと健康について スポーツ理論と実践方法	(予習)スポーツと健康について予習する。(90分) (復習)講義内容をまとめる。(90分)	
3	青木 和浩 他	体カトレーニング① 有酸素トレーニング	(予習)有酸素トレーニングの効果について予習する。(90分) (復習)トレッドミルや自転車エルゴメータの使用上の留意点について整理する。(90分)	
4	青木 和浩 他	体カトレーニング② 筋カトレーニング	(予習)筋カトレーニングの効果について予習する。(90分) (復習)筋カトレーニングの効果と実施上の留意点について復習する。(90分)	
5	青木 和浩 他	体カトレーニング③ 体力や目的に応じた運動処方①	(予習)各自の体力測定値を確認しておく。(90分) (復習)トレーニング内容の強度や回数が適切に行うことができたかを振り返る。(90分)	
	青木 和浩	体カトレーニング④	(予習)前回のトレーニング内容を元に、トレーニングを計画する。(90分)	

6	他	体力や目的に応じた運動処方②	(復習)トレーニング内容の強度や回数が適切に行うことができたかを振り返る。(90分)
7	青木 和浩 他	体カトレーニング⑤ 体力や目的に応じた運動処方③	(予習)前回までのトレーニング内容を踏まえ、トレーニング内容を見直す。(90分) (復習)トレーニング内容の強度や回数が適切に行うことができたかを振り返る。(90分)
8	青木 和浩 他	体カトレーニング⑥ 体力や目的に応じた運動処方④	(予習)前回のトレーニング内容を元に、トレーニングを計画する。(90分) (復習)体カトレーニングについての授業内容を総合的にまとめる。(90分)
9	青木 和浩 他	スポーツ・レクリエーション① レクリエーションゲームを用いたグループワーク	(予習)ASE、インシアティブゲームについて調べておく。(90分) (復習)各ゲームでの課題解決の過程について振り返る。(90分)
10	青木 和浩 他	スポーツ・レクリエーション② パラスポーツ(障がい者スポーツ)	(予習)パラスポーツ(障がい者スポーツ)について調べておく。(90分) (復習)障がいのある方と健常者がともにスポーツを楽しむための配慮について整理し理解を深める。(90分)
11	青木 和浩 他	スポーツ・レクリエーション③ フライングディスク	(予習)フライングディスクについて予習する。(90分) (復習)ディスクの特性とスロー方法について復習する。(90分)
12	青木 和浩 他	スポーツ・レクリエーション④ フライングディスクを使ったゲーム	(予習)ディスクゴルフ、アルティメットについて予習する。(90分) (復習)フライングディスクを使ったゲームについての授業内容を総合的にまとめる。(90分)
13	青木 和浩 他	スポーツ・レクリエーション⑤ サッカー① 基本技能・ミニゲーム	(予習)サッカーの基本技能について予習する。(90分) (復習)基本技能の上達のポイントについて復習する。(90分)
14	青木 和浩 他	スポーツ・レクリエーション⑥ サッカー② ゲーム	(予習)ルールについて予習する。(90分) (復習)各チームでゲームの内容を振り返る。(90分)
15	青木 和浩 他	スポーツ・レクリエーション⑦ サッカー③ ゲーム 全体のまとめ	(予習)前回のゲーム結果に基づいて次回のゲームの作戦を立てる。(90分) (復習)これまでの授業内容を総合的にまとめる。(90分) (課題)期日までにレポートを提出する。